

HP Connect-It

ソフトウェアバージョン : 3.81

SAP-AssetCenter統合ソリューション



法的制限事項

Copyrights

© Copyright 1994-2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211 および 12.212 準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

保証

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の明示的保証規定に記載されているものに限られます。

本書のいかなる内容も当該保証に新たに保証を追加するものではありません。

HP は、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねます。

ここに記載されている情報は、予告なしに変更されることがあります。

商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	9
SAP-AssetCenterの対象ユーザ	9
本マニュアルの使用法	9
1. 概要	11
AssetCenterとSAPとを統合する理由	11
SAP通信規格（IDOCおよびBAPI）	12
統合の概要	13
2. インストールと構成	15
必須構成	15
AssetCenterのインストールと構成	16
SAPサーバのインストールと構成	16
Connect-Itのインストールと構成	17
3. 参照データの統合	19
遵守すべき制約条件	19
参照データの管理	21
4. 調達の統合	25
ストラテジ1：予算的な検証をSAP側で行う場合	26

ストラテジ2：予算的な検証をAssetCenter側で行う場合	27
使用するConnect-Itシナリオ、SAPドキュメントタイプ、RFC	28
索引	31

図の一覧表

3.1. 参照データの管理	22
4.1. 調達管理 - ストラテジ1	26
4.2. 調達管理 - ストラテジ2	27

表の一覧表

3.1. 参照データの統合 - 使用するシナリオおよびドキュメントタイプ . . .	23
4.1. 調達の統合 - 使用するシナリオ、ドキュメントタイプ、およびRFC	28

はじめに

SAP-AssetCenterの対象ユーザ

SAP-AssetCenter統合ソリューションは、SAPとAssetCenterの併用を望む企業を対象としています。

通常、以下の分野に精通したコンサルタントが実装します。

- AssetCenterの構造と機能。
- SAPの構造と機能。
- Connect-Itの使用。

本マニュアルの使用法

「概要」の章

本章では、SAP-AssetCenter統合ソリューションの設計方法を説明します。

「インストールと構成」の章

本章では、SAP-AssetCenter統合ソリューションのさまざまなコンポーネントのインストール方法ならびに構成方法を説明します。

「参照データの統合」の章

本章では、**SAP**および**AssetCenter**の両方で、2つの参照データセットを管理する方法を説明します。

「調達の実装」の章

本章では、**SAP**および**AssetCenter**にまたがって実装されている調達サイクルの管理方法を説明します。

1 概要

SAP-AssetCenter統合ソリューションは、AssetCenterとSAPのデータベース間でデータを転送する際の基盤としての使用されることを目的としています。

この統合ソリューションをソースマテリアルとして使用し、企業に合った処理を設定できます。

2つのデータベース間でデータを転送することで、データの整合性を（特に調達管理で）保ちながら、AssetCenterとSAPの両方に依存して、処理を管理できるようになります。

統合ソリューションは、必要に応じて以下のようなニーズに適用できます。

- 転送対象フィールドのリストの変更。
- 転送対象テーブルの追加。
- その他

AssetCenterとSAPとを統合する理由

AssetCenterおよびSAPは、それぞれの領域における最善のアプリケーションです。

- 資産管理ソリューションであるAssetCenterは、とりわけIT資産に適します。
- SAPは、ERP（エンタープライズリソースプランニング）ソリューションです。

全体としてはアプリケーションの領域は異なるものの、一部重複する領域があります。

SAPは、複雑なプロジェクトの処理と、詳細にわたる会計処理の機能の点で優れています。

AssetCenterは、複雑な資産（特にIT資産）の管理、処理の作成（調達処理の管理などでのワークフロー使用）、インベントリの維持、ライセンスと詳細な経費の管理といった機能の点で優れています。

両方のパッケージを統合することで、互いの利点を最大限に活用し、共通データの維持を自動化できます。

- 重複する処理については、AssetCenterやSAPのどちらかを、処理のフェーズに合わせて使用します。
- サプライヤのカタログとモデルを除く共通参照データは、SAPで管理します。このデータの更新は、SAP-AssetCenter統合ソリューションを使用して自動化されます。
- サプライヤカタログは、2つのAssetCenterソフトウェアスイートの1つで手で管理されます。このデータはSAPには現れません。

SAP通信規格（IDOCおよびBAPI）

SAPでは、他のアプリケーションとデータを交換するのに、以下に挙げる2つの標準プロトコルを使用します。

- **IDOC**：SAPが、ファイルの書式でドキュメントの生成や取り込みを行えるようにします。生成されたドキュメントは、外部アプリケーションでインポートできます。逆に、SAPが取り込めるIDOCフォーマットのドキュメントを、外部アプリケーションが生成できます。

SAPには、規格としていくつかのIDOCドキュメントタイプが備わっています（IDOCデータタイプ）。

IDOCドキュメントの生成や取り込みは、SAPで自動化できます。

IDOCを使用することで、SAPとその他のアプリケーション間で、非同期的にデータを転送できるようになります。

- **BAPI（Business API）**：SAPが、ファイルを使用しないで外部アプリケーションとデータを交換できるようにします。

SAPには、規格としていくつかのBAPIデータタイプが備わっています（リモートファンクションコール）。

BAPIデータの交換のトリガは、外部アプリケーションで行う必要があります。

BAPIを使用することで、SAPとその他のアプリケーション間で、データを同期的に転送できます。

- **ALE**：この規格を使用して、同期モードおよび非同期モードでIDocファイルを処理します。

統合の概要

SAPとAssetCenterとの統合を実行するには、Connect-Itを使用します。

統合には以下に挙げるコネクタを使用します。

- Asset Management
- SAP BAPI
- SAP IDOC

データ転送用にシナリオが用意されています。

IDOCを使用するシナリオを以下に挙げます。

- IGetPeople.scn
- IGetCompany.scn
- IGetCostcenter.scn
- IGetInvoice.scn

BAPIを使用するその他のシナリオを以下に挙げます。

- BAPI_CREATE_REQUEST.scn
- BAPI_CREATE_PO.scn
- BAPI_RECEIVE.scn

2 インストールと構成

必須構成

SAP-AssetCenterの統合ソリューションの要件を以下に挙げます。

- SAP 4.5Bまたは4.6C（SAP-AssetCenter統合ソリューションは、これらの2バージョンとの動作試験を行っています。その他のバージョンでも動作する場合があります）
- AssetCenter 4.1.1以降
- Connect-It 3.81

以下のコネクタが必要です。

- Asset Management
- SAP BAPI
- SAP IDOC

完全ソリューションでは、以下のシナリオを使用します。

- 参照データの統合：
 - IGetPeople.scn
 - IGetCompany.scn
 - IGetCostcenter.scn
- 調達の統合：
 - BAPI_CREATE_REQUEST.scn
 - BAPI_CREATE_PO.scn
 - BAPI_RECEIVE.scn

- IGetInvoice.scn

AssetCenterのインストールと構成

AssetCenterのインストールと構成には、AssetCenterの『インストールとアップグレード』マニュアルに記載されている標準的な手順に従います。

次にフィーチャをAssetCenterデータベースにインポートします。

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 SAPと統合するAssetCenterデータベースに接続します。
- 3 **File/ Import**を選択します。
- 4 **Execute a script**をクリックします。
- 5 スクリプトを選択します。



注意:

スクリプトの完全パスを以下に挙げます。

```
[Connect-Itのインストールディレクトリ]\datakit\sap\acsapfeat\featerp.scr
```

このスクリプトにより、AssetCenter内に統合に必要なフィーチャが作成されます。

- 6 **Import**をクリックします。

推奨構成：

- ユーザ権限を変更して、参照テーブルを作成モードで変更できないようにします。
- ユーザ権限を変更して、参照フィールドを更新モードで入力できないようにします。

参照テーブルとフィールドのリストについては、セクション「遵守すべき制約条件 [献 19]」を参照してください。

SAPサーバのインストールと構成

SAPのインストールと構成には、SAPマニュアルに記載されている標準的な手順に従います。

Connect-Itが必要とするIDOCファイルを、SAPが自動的および定期的に生成するようにします。

以下のドキュメントタイプが必要です。

- HRMD_A01
- CREMAS01
- MATMAS01
- COSMAS01
- INVOIC01

これらのドキュメントタイプは、適切な*logical system*と*partner / port*のペアを参照する*distribution model*に含まれている必要があります。

さらに、新規レコードや変更されたレコードによりIDOCファイルが自動的に作成されるようにするため、*ALE distribution configurations* (*SALE*トランザクション)を定義して、*Activate change pointers for message types*オプションを有効にする必要があります (*set up data distribution*)。

Connect-Itのインストールと構成

Connect-Itのインストールと構成には、Connect-Itの『ユーザガイド』に記載されている標準的な手順に従います。

Connect-Itを、AssetCenterとSAPサーバにアクセスするコンピュータにインストールする必要があります。

ご使用の環境で機能するように、SAP-AssetCenter統合の各シナリオを構成します。

- 1 Scenario builderを起動します。
- 2 シナリオを開きます (**File/ Open**)。
 - SAP-AssetCenter統合ソリューションに含まれるシナリオのリストについては、「統合の概要 [献 13]」を参照してください。
- 3 **Scenario diagram**ウィンドウで**Global**タブを表示します。
- 4 **SAP IDOC**コネクタボックスが表示されていれば、右クリックします。
 - 1 **Configure the connector**をショートカットメニューから選択します。
 - 2 ウィザードのページを進みます (**Next**ボタン)。
 - 3 必要に応じてフィールドに入力します。
 - **Choose a file or folder**ページは、SAPがIDOCドキュメントを生成するフォルダやFTPサーバを参照する必要があります。これらの参照は、SAPの構成方法によって異なります。
 - **Configure IDOC type**ページは完全に入力する必要があります。
 - 4 **Finish**をクリックします。
- 5 **SAP BAPI**コネクタボックスが表示されていれば、右クリックします。
 - 1 **Configure the connector**をショートカットメニューから選択します。
 - 2 ウィザードのページを進みます (**Next**ボタン)。

3 必要に応じてフィールドに入力します。

Connector deploymentページには、AssetCenterがBAPI情報を送信するSAPホストの接続パラメータが入力されている必要があります。

これらの参照は、SAPの構成方法によって異なります。

4 **Finish**をクリックします。

6 **Asset Management**コネクタボックスを右クリックします。

1 **Configure the connector**をショートカットメニューから選択します。

2 ウィザードのページを進みます (**Next**ボタン)。

3 必要に応じてフィールドに入力します。

Define the connection parametersページには、AssetCenterデータベースの接続パラメータが入力されている必要があります。

4 **Finish**をクリックします。

7 IDOCの設定のため、**Mapping**ボックスを右クリックします。

1 **Edit a mapping**をショートカットメニューから選択します。

2 各マッピングをダブルクリックして、**Select a mapping**ウィンドウに表示します。

3 **Mapping**ペインで、**Additional scripts**タブを選択します。

4 *g_iLang*変数の値を、IDOCファイルの生成に使用するSAPの言語バージョンに対応する値に設定します。

ドイツ語であれば、これは*g_iLang* = 0となります。

5 **OK**をクリックします。

8 パラメータを保存します (**File/ Save**メニュー)。

シナリオの編集の詳細については、Connect-Itの『コネクタ』マニュアルを参照してください。

この後、シナリオの自動実行をスケジュールする必要があります。詳細については、Connect-Itの『ユーザガイド』、「統合シナリオのインプリメンテーション」章の「スケジュールの作成」を参照してください。

3 参照データの統合

AssetCenterとSAPとが相互作用できるようにするには、両方のデータベースに同等のデータが保持される必要があります。

SAP-AssetCenter統合ソリューションは調達サイクルに焦点を当てているため、デフォルトで以下の参照データを管理します。

- 部署と従業員
- コストセンタ
- サプライヤ

注意:

上記リストにある順序で、このデータを複製する必要があります。

ヒント:

これらのデータタイプを自由に活用し、他のデータタイプの管理に役立たせることができます。

遵守すべき制約条件

2つ異なるシステムで整合性のあるデータを維持するには、以下に挙げる一連の制約条件があります。

参照データベースの指定

最初に参照データベースを指定する必要があります。この場合、参照データベースはSAPデータベースです。

参照データベースでの新規レコードの作製

新規参照データをSAPデータベースに作成する必要があります。IDOCドキュメントがSAPで正しく生成されていない場合、Connect-Itは、作成されたレコードをAssetCenterに伝播します。

警告:

新規レコード（新規従業員など）をAssetCenterデータベースに直接作成した場合、Connect-ItはこのレコードをSAPデータベースに伝播しません。標準として用意されているシナリオでは、この伝播が対象外であるためです。しかし、転送が双方向に機能するように、シナリオをカスタマイズできます。

ヒント:

AssetCenterデータベースの参照テーブルへのレコードの作成を禁止することを推奨します。

これはユーザ権限を使用して実行できます。

関係するテーブルを以下に挙げます。

- [従業員] (amEmplDept)
- [会社] (amCompany)
- [コストセンタ] (amCostCenter)

参照データベースにある参照フィールドの変更

SAPデータベースからAssetCenterデータベースに転送されたフィールドは、SAPデータベースのみで変更する必要があります。Connect-Itにより、このようなフィールドの値がAssetCenterデータベースに伝播されます。

警告:

新規レコード（従業員の電話番号など）をAssetCenterデータベースに直接作成した場合、Connect-ItはこのレコードをSAPデータベースに伝播しません。

ヒント:

AssetCenterデータベースの参照フィールドへの書き込み権限の更新を禁止することを推奨します。

これはユーザ権限を使用して実行できます。

参照フィールドを識別するには、以下のシナリオのマッピングを確認してください。

- IGetPeople.scn
- IGetCompany.scn
- IGetCostcenter.scn

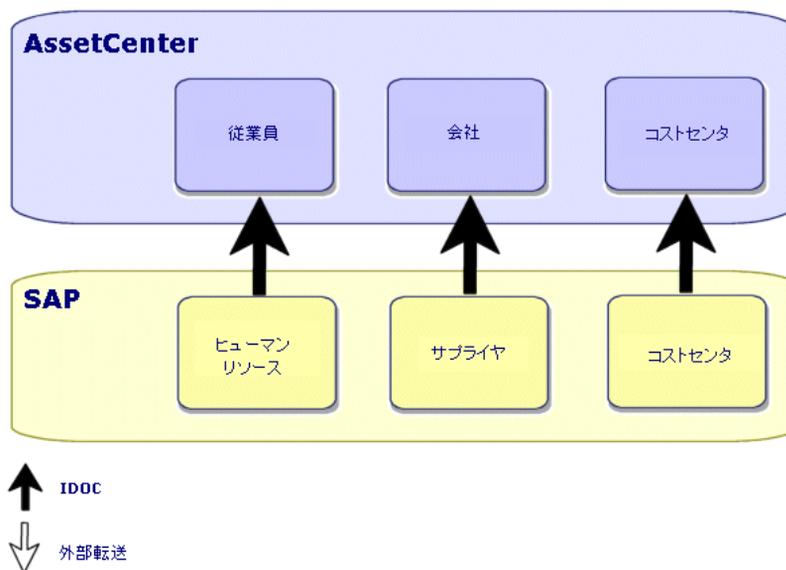
シナリオマッピングを表示するには：

- 1 Connect-Itを起動します。
- 2 シナリオを開きます (**File/ Open**) 。
- 3 **Mapping scenario**ウィンドウにある**Global**タブで、**Mapping**ボックスを右クリックし、**Edit a mapping**をショートカットメニューから選択します。
- 4 マッピングをダブルクリックして、**Select a mapping**ウィンドウに表示します。
- 5 **Mapping**を調べます。
- 6 **Elements**列に表示されるフィールドは、更新アクセス権限の付与が禁止されている参照フィールドです。

参照データの管理

以下の図は、SAPとAssetCenterのデータベース間でのデータ転送の様子を示します。

図 3.1. 参照データの管理



コメント：

- SAPデータベースが参照データベースとして使用されます。
- AssetCenterデータベースは、Connect-Itを経由して更新されます。これらのシナリオではIDOCを使用します。
- AssetCenterは、SAP-AssetCenter統合ソリューションには含まれない、その他の手段で更新されます。

Connect-Itには、カタログのインポートを処理するシナリオ (*catalog.scn*) が備わっています。このシナリオは、*Asset Management*コネクタを使用しません。

使用するシナリオとドキュメントタイプ

インストールプログラムにより、シナリオは<Connect-It 3.81 installation folder>\scenario\sapac43といったフォルダにコピーされます。

表 3.1. 参照データの統合 - 使用するシナリオおよびドキュメントタイプ

転送されたデータのタイプ	使用Connect-Itシナリオ	使用SAP IDOCドキュメントタイプ
従業員	IGetPeople.scn	HRMD_A01
サプライヤ	IGetCompany.scn	CREMAS01
コストセンタ	IGetCostcenter.scn	COSMAS01

 ヒント:

Connect-Itをインストールすると、サンプルのIDOCファイルがConnect-Itのインストールフォルダのdatakit\sap\idocsサブフォルダにコピーされます。これらのファイルはテスト用途に使用できます。

 警告:

マッピングを表示するには :

- 1 Connect-Itを起動します。
- 2 シナリオを開きます (**File/ Open**) 。
- 3 **Mapping scenario** ウィンドウにある**Global** タブで、**Mapping** ボックスを右クリックし、**Edit a mapping** をショートカットメニューから選択します。
- 4 マッピングをダブルクリックして、**Select a mapping** ウィンドウに表示します。
- 5 **Mapping** を調べます。

4 調達統合

SAP-AssetCenter統合ソリューションにより、ある調達タスクがAssetCenterに、その他の調達タスクがSAPに割り当てられます。

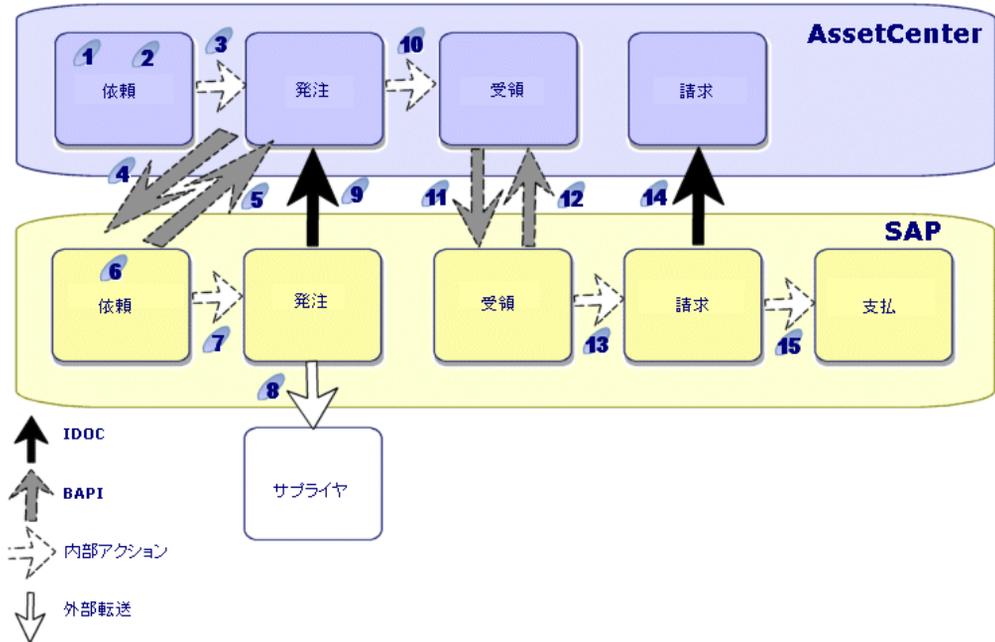
これにより、各アプリケーションの固有の利点を活用です。

以下に挙げる2つの異なる戦略があります。

- ストラテジ1：予算的な検証をSAP側で行う場合 [献 26]
- ストラテジ2：予算的な検証をAssetCenter側で行う場合 [献 27]

ストラテジ1：予算的な検証をSAP側で行う場合

図 4.1. 調達管理 - ストラテジ1



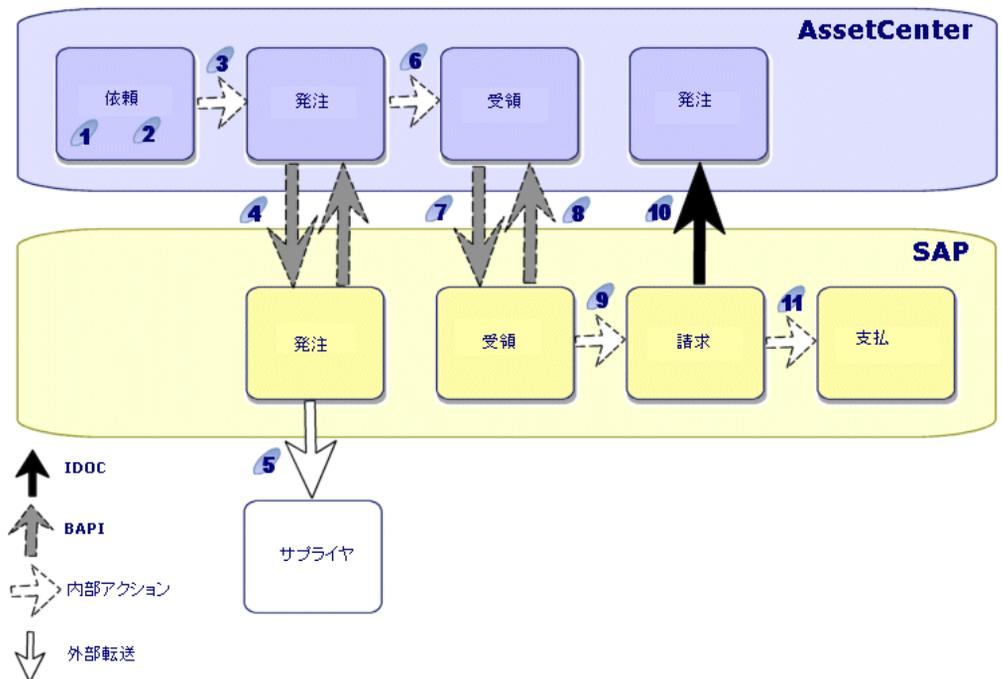
このストラテジでは、調達サイクルは以下のように構成されます。

- 1 AssetCenter側で購入依頼が発行されます。
- 2 AssetCenter側で購入依頼が技術的な検証を受けます。
- 3 AssetCenter側の依頼から、AssetCenter側で購入依頼が発行されます。
- 4 *BAPI_CREATE_REQUEST.scn*シナリオでは、検証された発注をAssetCenterからSAPに転送する際、BAPI (*BAPI_REQUISITION_CREATE*) が使用されます。
- 5 同じシナリオがSAPの依頼番号をAssetCenterの購入依頼に入力します。
- 6 SAP側で購入依頼が予算的な検証を受けます。
- 7 SAP側で、購入依頼がSAP依頼の書式で発行されます。
- 8 発注がSAP側からサプライヤに送信されます。
- 9 Connect-ItシナリオがIDOCを使用し、AssetCenterの購入依頼をSAPの購入依頼の情報で更新します。
- 10 AssetCenter側で、購入依頼にある資産が受領されます。

- 11 *BAPI_RECEIVE.scn*シナリオでは、AssetCenterから受領した受領伝票をSAPに転送する際、BAPI (*BAPI_GOODSMVT_CREATE*) を使用します。
- 12 同じシナリオがSAPの受領番号をAssetCenterの受領伝票に入力します。
- 13 SAP側で、請求書の作成、検証、支払い処理が行われます。
- 14 *IGetInvoice.scn*シナリオは、請求書をAssetCenterに転送する際、IDOC (*INVOIC01*) を使用します。
このため、実際にサプライヤに支払った金額がAssetCenterで得られます。
- 15 SAP側で、支払いのためのSAP請求書が処理されます。

ストラテジ2：予算的な検証をAssetCenter側で行う場合

図 4.2. 調達管理 - ストラテジ2



このストラテジでは、調達サイクルはより簡単になり、以下のように構成されます。

- 1 AssetCenter側で購入依頼が発行されます。
- 2 AssetCenter側で、購入依頼が技術的な検証、予算的な検証を受けます。

- 3 AssetCenter側の依頼から、AssetCenter側で購入依頼が発行されます。
- 4 *BAPI_CREATE_PO.scn*シナリオでは、AssetCenterで検証された発注をSAPに転送する際、BAPI (*BAPI_PO_CREATE*) を使用します。
同じシナリオがSAPの発注番号をAssetCenterの発注に入力します。
- 5 発注がSAP側からサプライヤに送信されます。
- 6 AssetCenter側で、AssetCenterの購入依頼にある資産が受領されます。
- 7 Connect-It *BAPI_RECEIVE.scn*シナリオは、受領伝票をAssetCenterからSAPに転送する際、BAPI (*BAPI_GOODSMVT_CREATE*) を使用します。
- 8 同じシナリオがSAPの受領番号をAssetCenterの受領伝票に入力します。
- 9 SAP側で、請求書の作成、検証、支払い処理が行われます。
- 10 *IGetInvoice.scn*シナリオは、請求書をAssetCenterに転送する際、IDOC (*INVOIC01*) を使用します。
このため、実際にサプライヤに支払った金額がAssetCenterで得られます。
- 11 SAP側で、支払いのためのSAP請求書が処理されます。

使用するConnect-Itシナリオ、SAPドキュメントタイプ、RFC

表 4.1. 調達の統合 - 使用するシナリオ、ドキュメントタイプ、およびRFC

転送されたデータのタイプ	使用Connect-Itシナリオ	使用SAP IDOCドキュメントタイプ	使用SAP BAPI RFC
AssetCenterの購入依頼->SAPの依頼 (ストラテジ1)	<i>BAPI_CREATE_REQUEST</i> .scn		<i>BAPI_REQUISITION_CREATE</i>
AssetCenterの購入依頼 -> SAPの購入依頼 (ストラテジ1)	<i>BAPI_CREATE_PO</i> .scn		<i>BAPI_PO_CREATE</i>
AssetCenterの受領 -> SAPの受領 (ストラテジ1および2)	<i>BAPI_RECEIVE</i> .scn		<i>BAPI_GOODSMVT_CREATE</i>
SAPの請求書 -> AssetCenterの請求書 (ストラテジ1および2)	<i>IGetInvoice</i> .scn	<i>INVOIC01</i>	

ヒント:

Connect-Itをインストールすると、サンプルのIDOCファイルがConnect-Itのインストールフォルダのdatakit\sap\idocsサブフォルダにコピーされます。これらのファイルはテスト用途に使用できます。

 **警告:**

マッピングを表示するには :

- 1 Connect-Itを起動します。
- 2 シナリオを開きます (**File/ Open**) 。
- 3 **Mapping scenario** ウィンドウにある **Global** タブで、**Mapping** ボックスを右クリックし、**Edit a mapping** をショートカットメニューから選択します。
- 4 マッピングをダブルクリックして、**Select a mapping** ウィンドウに表示します。
- 5 **Mapping** を調べます。

索引

インストール

AssetCenter, 16

Connect-It, 17

SAP, 16

カスタマイズ, 11

コネクタ, 13

シナリオ

BAPI, 13

IDOC, 13

データタイプ, 12

マッピング - 表示, 21

リモートファンクションコール, 12

概要, 11

構成

AssetCenter, 16

Connect-It, 17

SAP, 16

参照テーブル, 20

参照データベース, 20

参照フィールド, 20

適用, 11

必須構成, 15

A

AssetCenter - インストールと構成, 16

B

BAPI, 12

BAPI_CREATE_PO.scn, 28

BAPI_CREATE_REQUEST.scn, 28

BAPI_GOODSMVT_CREATE, 28

BAPI_PO_CREATE, 28

BAPI_RECEIVE.scn, 28

BAPI_REQUISITION_CREATE, 28

C

Connect-It - インストールと構成, 17

COSMAS01, 23

CREMAS01, 23

H

HRMD_A01, 23

I

IDOC, 12

IGetCompany.scn, 23

IGetCostcenter.scn, 23

IGetInvoice.scn, 28

IGetPeople.scn, 23

S

SAP - インストールと構成, 16